

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200376		
法人名	合同会社 ライフサポート・ゆうゆう		
事業所名	グループホームゆい八木沢		
所在地	〒027-0031 岩手県宮古市八木沢四丁目5番33号		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム近隣に同事業所のグループホームを運営しており、お互いのホームを行き来もあり、ほっこりとする繋がりがあ
ります。家庭的な雰囲気の中で、利用者様お一人お一人に合わせたご自身のペースで動いていただけるよう心掛けて
おります。その方の得意とする家事活動等では、食事の準備、味見、配膳、下膳、洗濯物たたみなど可能な限りその方
に合わせた内容をお手伝い頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の事業所は、宮古市郊外の住宅地に立地し、隣接して同一会社が経営するグループホームとも連携した運
営を行っている。事業所前の畑作りを利用者と一緒にいき、収穫した野菜を食材として活用しながら、利用者の好みに
配慮した食事が提供されている。利用者の歴史に配慮し尊厳を大切にするという事業所の理念を活かして、利用者の
思いを聴き出すと共に、排泄ケアにおいてもプライバシーに配慮したケアが行われている。市内の医療機関との連携
を継続しながら、訪問看護サービスや薬局の訪問サービスも活用して良好な医療連携体制が取られている。災害対応
の避難訓練を地域の協力を得ながら実践的に行い、コロナ禍のために地域との交流活動ができない現状にあっても、
近い将来の再開を期している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングで唱和し、常に心に留めるようにしています。介護理念はホールに掲示しております。	利用者の歴史と尊厳、つながりを大切にするとした理念は、同一会社が経営する隣接のグループホームと共通で、職員は毎朝のミーティングで唱和し、ホール内にも掲示している。職員は理念に掲げるところに沿って、利用者から地域の昔話や若い頃の思い出話などを聴き出しながら、利用者の生活歴や思いの把握に努めている。	毎朝の唱和や利用者の歴史に着目した取り組みは評価できます。職員が策定に関わっていないため、さらに理念の共通理解を進め、実際のケアに一層活かしていくことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域との行事は、交流機会が持っておりません。	地域の自治会に参加し、回覧板が回ってくるほか、年2回の地域の清掃活動には職員が参加している。コロナ禍のため、お祭りに参加しての地域の方々との交流は、殆ど出来ていない状況が続いている。近所の方からは野菜などの差入れを頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に同事業所のゆうゆう茶屋があり、地域の方も利用できることを紹介しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが一時おさまった6月に一度運営推進会議を行っています。会議を行わない月は文面での報告をさせていただいております。	運営推進委員には自治会長や民生委員、消防団長等の地域関係者が参加し、バランスよい構成となっている。コロナ禍のため今年6月に集合開催したほかは、全て書面開催となっている。委員には入居状況やヒヤリハットの報告、広報誌等を届けているが、意見等は余り寄せられていない。	書面開催の場合には、委員から意見や質問が出しやすい工夫が大切と思われる。例えば、項目毎の様式に返信用封筒を添える等により、多くの意見が寄せられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括職員の方も関わりを頂いている。市町村担当者とはメールや電話での連絡を頂いております。	運営推進委員として地域包括支援センターの職員が参加しており、会議資料も毎回届け事業所の運営状況に理解をいただいている。入居状況についても情報交換している。市担当課とはメールや電話で行政情報等の提供をいただいている。市が主催する合同研修会には事業所からも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で「身体拘束ゼロへの手引き」を施設内研修で勉強する機会を持っております。身体拘束を理解しスピーチを再確認、意識するようにし身体拘束のないケアに努めています。	身体拘束防止に関する委員会を年4回開催し、テーマを高齢者虐待や介護ハラスメント、スピーチロック等としての職員研修も行っている。スピーチロックに関しては、職員の手が足りない時に見られることがあり、その場で話し合って気づきを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての所内研修を行い、虐待の定義、実態、対策などについて学ぶ機会を設け、虐待防止に努めて参ります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所される方で権利擁護権を利用されている方はおりません。今後研修する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、家族や利用者に不安が残らないように説明しています。疑問があった場合にはその都度説明、理解を頂くように努めてまいります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に外部の苦情、相談の窓口を説明しております。家族の来訪時に要望や意見を伺うようにしております。	利用者からは食事や外出に関する希望が多く出されている。家族は通院の付添いや毎月の広報誌、ホームからの報告で利用者の様子を概ね把握しており、「天気の良い日は散歩させて欲しい」「栄養補助食品も食べさせて」などの要望も寄せられ、出来る限り意向に沿っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際、日々の申し送りの場で何か問題が起きた場合には、話し合いの場を設けて職員からの意見、要望を聞く気合を設けております。	朝のミーティングや毎月の職員会議で、職員の意見・提案を把握している。職員体制が整ってなかった時期には、そのことへの要望が多かった。食器数が多く片付けが大変なことからワンプレートに改善したり、夜中に窓を開けている利用者への職員の不安をもとに対策を話し合っている。管理者との個人面談は年1回実施している。	

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境づくりを常に考えて努力して頂いています。年に1回は代表社員を含めた役員と職員の面談を行い、就業環境については個別に話し合いをしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の職員会議に研修を実施しています。外部研修では、コロナ禍のため、直接会場にて研修を受けることはなくなったが、e-ランニング等のインターネットを使っての研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団実地指導に参加し、市内の介護施設の方々との情報共有をしました。グループホーム協会の研修会、勉強会に参加し情報共有に努めます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に耳を傾け環境に慣れるまでにはそばに付き添い、必要に応じて家族より協力を頂き、生活に慣れて安心して過ごせるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より情報や意向を聞きより良い関係を築けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人、家族より情報を頂きカンファレンスを行い、サービス内容を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者より「手伝いますか」と声をかけてくださることがあり、配膳、下膳、茶碗拭き、洗濯たたみ等の日課を一緒に行っております。		

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、ホーム内での様子を伝える手紙を送っています。通院時の付添いをお願いしたり、利用者の対応について家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で面会や外出機会が少なくなりました。隣のグループホームゆうゆう八木沢の利用者とはテラスに出た際に声を掛け合ったり、お互いのホームに行き来することもあります。	家族が通院に付添って送迎する際に、馴染みの店で麺類や刺身を食べたり実家に立寄ったりするほか、馴染みの美容院に寄る利用者もいる。散歩の途中で三陸鉄道が通ると手を振って喜んでおり、利用者の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のお互いの関係を把握した上で、食事の席替えをしています。利用者同士で声を掛け合い、手伝おうとされたり、又不安を訴える方の話を聞いて寄り添ってくださる方もあり良い関係を築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関へ入院されサービス終了後の利用者に、今後のサービスなどについて、相談に乗り、支援に努めています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握し、本人より直接声を聞くようにし、聞き取りをするようにしています。	大半の利用者が思いや意向を言葉で表すことができる。茶碗拭きや洗濯物たたみ等をやりたいという利用者が多く、率先してお手伝いしている。中には、困っている人の力になって手伝いたいという気持ちの利用者もあり、職員はその気持ちを尊重して危険のないよう見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中からこれまでの過ごし方や習慣などを知り継続できる部分は維持できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日3回バイタルチェックを実施している。食事と排泄チェック表で身体の調子や排泄リズムを確認する。ケース記録では、午前・午後・夜間帯の様子やその時の行動について記入しています。		

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、本人・家族の意向を確認し計画を作成している。毎月の所内会議で介護計画を職員に確認してもらい、ケース検討の機会をもうけています。	新規の利用者については、病院や担当のケアマネからの情報をもとに、ケアマネが中心になって当面の介護計画を作成している。入居後数カ月経過した頃を見計って、担当職員のモニタリング等を基に、全職員によるカンファレンスを経て決定している。計画の見直しはほぼ3か月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の日誌を記入し、気づいた事はミーティングノートに記入します。職員間の情報共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々々の要望に臨機応変に対応できるよう努めます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流会は開催されておらず、参加できておりません。今後地域の方よりお聞きしながら楽しむことができるようにしたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医を継続されており、通院時にはホームでの様子を主治医へ報告して頂いています。体調等で気になるときにはかかりつけ医で電話相談しています。	入居前からのかかりつけ医を継続して利用している利用者が多く、市内の精神科病院やクリニックにそれぞれ通院している。通院には家族が付き添い、コロナ禍にあつて貴重な外出機会となっている。訪問看護サービスは週2回、薬局が週1回来所し、健康管理や薬の仕分けを担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化・情報などがあれば、訪問看護と連携・相談し、専門医の受診や指示を受けています。急変時などには、適切な指示を頂けるようにしています。		

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急時に対応できるように利用者の情報を医療機関にて提供で切つるように利用者情報を作成している。通院時にもホーム内の様子を文章で報告しています。管理者と医療機関との入院時連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りを行えることを説明しています。見取りの実績はありません。終末期のあり方について職員が本人や家族と話ができるように努めます。また、職員に対して看取りについての研修も予定しています。	入居の際に重度化や看取りの対応について、本人や家族に説明し了解を得ている。看取りの指針は作成しているが、まだその経験はない。介護度が高くなった場合には特養への入所申請を勧めている。看取りに備え、訪問する看護師による研修を実施しており、協力医の支援も得られそうな見込みもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習、訪問看護より急変時の対応の研修を受けて、実践力をそれぞれ身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月に1回避難訓練を実施しています。火災、水害の日中・夜間を指定した訓練を実施しております。	様々な想定による災害避難訓練を2カ月毎に行っている。事業所はハザードマップで、八木沢川の洪水による浸水予想の境目付近に位置しているため、まずは2階への垂直避難を想定している。近接のグループホーム職員や地域の住民の協力を得て、火災の夜間想定訓練も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個別です。排泄時、入浴時の介助や見守り、居室へ訪問する際には利用者に声掛けをしてから行えるようにしています。	理念に利用者の尊厳を大切にすることを掲げている。言葉遣いには特に気を付け、馴れ馴れしく声掛けしないよう注意している。トイレ誘導の声掛けでは、耳元で小声で話したり、おやつついでに誘導している。排泄で失敗した場合には、周りから気づかれないよう配慮したり、さりげなく処理したりしている。トイレから直接浴室に向かう動線も整備されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えやその日の着る洋服を本人に選んで頂き職員と一緒に用意しています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間を特に決めておらず、本人のペースで過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時や外出時には、衣類をできるだけ本人から決めて頂いております。散髪を希望される方がおり、外部より散髪を頼んでおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見、盛り付け、配膳、下膳、おしぼり用意、茶碗拭きなどもその方におうじた内容を職員と一緒に頂いております。	献立作成や調理は職員が交代で行い、利用者の希望するメニューも提供している。事業所前の畑で職員と利用者が野菜を作り食材として活用している。利用者の多くが菊の花をむしったり、食材の下ごしらえや食器拭きなどを手伝っている。なるべく行事食も手づくりとし、誕生会では「おしるこ」が好まれ、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はそれぞれの一覧表にて確認しています。その日の体調に合わせて食べやすい状態で提供しています。好き嫌いを把握し、制限のある方には別献立を提供し配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・うがいを促しています。なるべく自分のできる部分を促して行っていただくようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁する前にトイレに行けるように排泄チェック表を確認して声掛けを促しています。日中・夜間とも声掛けをしてトイレ誘導しています。	タブレットに記録された排泄状況記録をもとに、適時の声掛けと誘導を行っており、布パンツで自立の方が2人で他はリハビリパンツを使用している。タブレットには食事量や水分摂取量も一緒に入力されており、内容は訪問看護師もチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルトを毎日提供しています。水分・食事量・便秘の有無を確認しています。体操を皆と一緒にいき、自主的に歩行練習して、便秘予防に繋がっています。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホームゆい八木沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴できるようにしております。拒否される場合には時間を置いて再度声掛けをしますが、無理をせずに他の方に声をかけて入浴して頂けるようにしております。	毎日の入浴が可能となっており、週の4日位入浴できている。入浴を嫌がる場合には、声掛け職員を替えたりあれこれ工夫して対応している。季節を感じられる菖蒲湯もあり楽しんでいる。入浴は、職員と利用者が1対1になる時間であり、利用者が語る本音を聴きとめる機会ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様にはなるだけ日中に活動して頂き、夜間にぐっすり眠れるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルにまとめ、職員がいつでも見られるようにしています。服薬とバイタルチェック表を用いて症状の変化を確認しています。訪問看護には通院時薬の変更になった際には情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業、花の手入れ、洗濯たたみ、折り紙など地震の得意なことや興味のあることを先生になって頂き、職員とともに行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩、ドライブなどを行っております。	コロナ禍で制限される中であって、春のお花見や秋のモミジ見物など、3人程の少人数で近場へのミニドライブで外出支援を行っている。暖かい日にはホーム周辺や近所の野菜畑まで散歩しているほか、海岸を廻るドライブに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって自己管理されておられる方もおります。希望時にはお金を使えるように支援しています。利用者より買い物希望があれば、その都度職員対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にはやりとりができるように支援しています。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームゆい八木沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度を確認し温度は23～25度、湿度は40%～60%になるようエアコン・加湿器を使用し調整しています。	食堂兼ホールには三台のテーブルが置かれ、10時のコーヒータイムには、各自のお好みの飲み物を頂きながら、卓上ゲーム等を楽しんでいる。ゆったりとしたソファも置かれ、利用者は寛いで過ごしている。壁面には塗り絵や折り紙の作品、フェルト布地の飾りなどが明るく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、その時の気分で好きな場所に座り、テレビを見たり、会話されたり、折り紙をしたりと思い思いに過ごせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとチェストは各部屋に備え付けてあります。誕生日カードや塗り絵作品を飾ったり、家族写真を飾っている方もおられます。	居室にはエアコンとベッド、チェストが備付けられ、利用者はテレビや位牌、家族写真などをそれぞれに持ち込んでいる。壁にはプレゼントされた誕生日カードや家族写真などが飾られ、自らが詠んだ短歌ノートを置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面には段差がありません。居室の扉が少し開けにくい方には、お手伝いしております。廊下の手すりを使用し歩行練習をさせております。		